

# 「苦手なことに挑戦して」

美深高等学校 卒業生を招き講話聴く

がら、働く力や生活する力を身に付けることが狙い。

1年から3年までの生徒76人が参加。同校38期卒業生（工業科）の後藤海翔さんが講師を務めた。後藤さんは現在、旭川市内の小売業に勤務している。

講話は生徒からの一問一答形式で進行。

仕事面での質問で、今の仕事を選んだ理由や一般就労をしようと思った理由は、「自分の苦手な接客を試してみたから」。

「仕事に必要な力は

何ですか」の質問に対し、「コミュニケーション力と体力」。

「学校にいる間に、やっておいた方がいいことは」の質問には、「初めてやることでも、仕事ならば、やらなければならない。そのために、今から何事にも挑戦すること。特に、自分が苦手だと思っていることに挑むことが大切」とした。

自分の感情や気持ちの伝え方で気を付けていることとして、「相手に分かりやすく伝えることを心掛けている。

お客さんに品物のある場所を聞かれたときは、簡潔に分かりやすく伝えている」。

仕事をしている中で気を付けていることとして、「すべきことの優先順位をつけること。忙しいときに優先順位をつけなければ、混乱したり、慌ててしまったりするから」と説明。

仕事のやりがいや、「お客さまに『助かった』『ありがとう』などと感謝の言葉をかけてもらったとき」と答えた。

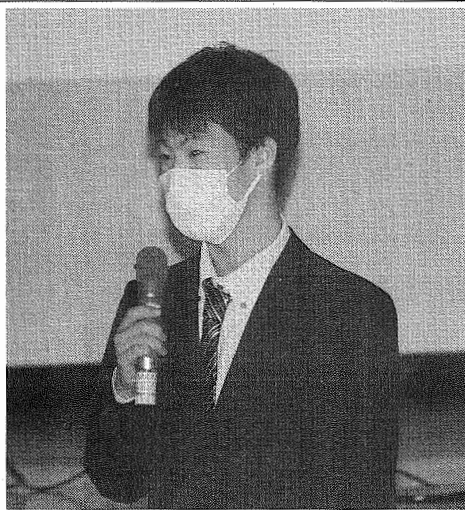
生活面についての質問で、勤務終了後の生

活の様子や、グループホームと寄宿舎生活の違いなど。余暇面での質問では、初めての給料で買った物や、日々の金銭管理の状況など生徒からさまざまな質問が飛んでいた。

最後の後藤さんは生徒に向け、「一年間はあつと言つ間に過ぎていく。悔いのない学校生活を送ってください」とメッセージ。

生徒代表が「貴重な時間をありがとうございました。働いて生活する上で気を付けることを学ぶことができました」と礼を述べた。

（問所）



講師を務めた同校卒業生の後藤さん

【美深】美深高等養護学校（大泉真哉校長）の卒業生講話が、2月26日午前10時50分から同校で行われた。同校の卒業生を講師に招いて、在学中に取り組むべきことなどに理解を深め、今後の進路の参考としていた。全学年の生徒を対象とした卒業生講話で、卒業後の実際を聴きな